

選択 A 「日本学概論」 2017-18 年度実践報告

結城佐織¹、松本隆²、橋本佳子³、大沢えり⁴

【要旨】

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターでは、2017-18 年度より選択 A（専門科目）の科目として新たに「日本学概論」を設置した。「日本学概論」は専門が定まっていない学生、幅広い分野の日本語力を追及したい学生に向けた科目である。センターの選択 A の科目を中心に日本研究や日本についての多種多様な教材を用い、知識と教養を蓄え、理解を深めたのち、話し合うことを目的としている。

本稿では 2017-18 年度の 3、4 学期の実践内容やアンケート結果の報告をする。

【キーワード】

知識と教養、専門性、幅広い分野、チャレンジング (Challenging) な活動

1 「日本学概論」設置の経緯

アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター（以下、センター）の目的について、青木 (2017) では「日本社会に違和感なく受け入れられる高度な日本語の教育を通じて、日本研究の専門家、日本関係の実務家を育成し、これにより、世界における日本理解を促進することとしている。2016-17 年度までセンターでは、選択 A として、文学、文化人類学、法律、美術・美術史、歴史学、政治・経済を提供していた⁵。2 学期までに日本語力を底上げし、3・4 学期に専門性の高い日本語の授業を提供する。

しかしながら、専門が定まっていない学生、幅広い分野の日本語力を追及したい学生などは、専門性を追求していく選択 A にはついていけない、学習目的が異なるという場合が多い。現在センターは学生のニーズや時代に合わせたカリキュラムの転換期に来ているともいえる⁶。このため選択 A の他のクラスのテキストより内容のレベルを極力落とすことなく⁷日本語を学習することをめざし、2017-18 年度より選択 A に「日本学概論」という新たな科目を設置するに至った⁸。授業は、センターの専門科目を中心に多種多様な教材を用い、日本研究や日本について広範に学ぶ。知識と教養を蓄え、理解を深めたのち、互いに話し合うというものである。

2 教材

日本学概論の教材は 2 種類に分類される。一つは専門科目、一つはその他である。専門

科目として、従来の選択 A の科目のほかに、言語学と茶道を加えた⁹。選択 A の教材に関しては、各専門のクラスで実際に使用しているテキストと同じもの、あるいは同じレベルのものを提供してもらった。選択 A を担当しない教員でも専門科目を扱えるように、教材提供者には、キーワード、教材のねらい、学生に考えてほしいこと、問題提起、参考文献、その他（担当の先生へのアドバイス、注目させてほしいことなど）などをできる限り明記してくれるよう依頼した。ビデオに関しては授業の進度・内容等を加味し、コースデザイン担当者が用意したものもある。その他の教材に関しては、コースデザイン担当者が随時選択・作成した。

2-1 専門科目

2017-18 年度に授業で使用した専門科目の教材は以下の通りである¹⁰。専門科目については、表紙（資料 1）、予習シート、単語表を揃えた。専門を持たない学生と専門外の内容を扱う講師のために、表紙には論点などを記載している。また、学生の理解のために必要だと考えた場合、追加資料も用意した¹¹。

文学：①村上春樹 (1984) 「螢」

②高橋たか子 (1982) 「ロンリー・ウーマン」

文化人類学：

①田中克彦 (1981) 「母語と母国語」

②ETV 特集 (2006) 「人間（アイヌ）からの問いかけ～萱野茂のメッセージ」

法律：①青木惣一編集 (2017) 「憲法」¹²

②NHK for school (2018.1) 「裁判員裁判ってなに？」 2018 年度第 7 回、10min.
ボックス

茶道：①谷端昭夫 (2007) 「信長の名物狩りと御茶湯御政道」

②スムットニー裕美 (2016) 『茶の湯とイエズス会宣教師』より一部

言語学：松本隆編集 「日本語をどう書くか」 (2017) ¹³

美術：①磯貝友紀・寺田鮎美・山崎佳子・近藤由紀 (2001) 「揺れ動く『信』と『贗』」

②日本経済新聞社 (2017.11.18) 「北斎の画業・影響 深まる国際研究」

③NHK (2017) 「国宝 美と日本人の物語」、歴史秘話ヒストリア

歴史：①小風秀雅編 (2016) 「開港と不平等条約—欧米外圧の再検討—」

②横浜開港資料館企画 (1987) 「横浜の歩み」

政治・経済：

①青木幸弘 (2015) 「第 4 章 ポジショニング」

②池上彰 (2016) 「政治とメディア」

③日本経済新聞社 (2018.4) 「留学生 日本での企業支援」

④薄井美奈子氏作成パワーポイント (2016年度版)

複数の教材提供があった際に、実際の授業で使った読解教材の選択基準は以下の①～④とした。

- ①専門性や背景知識が十分でなくとも、日本語がわかれば理解できる内容
- ②センターの3学期の学生が、専門でなくとも授業2程度で読解の確認ができる量
- ③読み終えた後、「教養の範囲」での議論ができる内容
- ④授業担当者が対応できる内容¹⁴

2-2 その他の教材

学生の進路や趣味・趣向、日本語強化を加味し、「その他」として専門科目以外の教材も扱った。使用した教材は以下の通りである。

- ①井上亮 (2017)「真の問題は「皇位継承」制度改革だ」
- ②リービ英雄 (1997)「文学者の国、に僕がいる」¹⁵
- ③湯浅誠 (2017)「経済的損失四十兆円二〇一七年は子供の貧困対策元年」
- ④山口紗貴子 (2017)「「働き方改革」法案が生む「ブラック残業」」
- ⑤小浜逸郎 (2007)「期待の構造」

3 実施内容

3-1 授業内容と進度

日程：3学期 (1月16日～3月9日)

4学期 (3月27日～5月25日)

時間数：50分×2コマ×週2回×16週

学生：8名 (初中級レベルから上級レベル)

以下が3、4学期に行った授業内容と進度である。選択A (17-18年度) は火曜日と金曜日に行っている。教材名などは紙面の都合上一部省略してある。2を参照のこと。

3 学期

1月16日	文学	読み物「蛍」Ⅲまで
19日		読み物「蛍」Ⅷまで
23日		読み物「蛍」最後まで

26日	文化人類学	読み物「母語と母国語」
30日		ビデオ「人間（アイヌ）からの問いかけ」
2月2日	その他	読み物「真の問題は「皇位継承」制度改革だ」
6日	法律	読み物「憲法」 タスク3まで ¹⁶
9日		読み物「憲法」 最後まで
13日		ビデオ「裁判員制度ってなに？」
16日	その他	読み物「「文学者」の国にぼくがいる」
20日	茶道	読み物「信長の名物狩りと御茶の湯御政道」
23日		読み物「茶の湯とイエズス会宣教師」序論
27日		映画「利休」
3月2日	その他	読み物「経済的損失四十兆円」
5日	言語学	読み物「日本語をどう書くか」Ⅰ、Ⅱ
9日		読み物「日本語をどう書くか」Ⅲ、Ⅳ
4 学期		
3月27日	美術	読み物「揺れ動く「信」と「贋」」前半
30日		読み物「揺れ動く「信」と「贋」」後半
4月3日		読み物「北斎の画業・影響 深まる国際研究」
6日		ビデオ「国宝 美と日本人」
10日	その他	読み物「「働き方改革」法案が生む「ブラック残業」」
13日	歴史	読み物「開港と不平等条約」1-2
17日		読み物「開港と不平等条約」3-4
20日		読み物「開港と不平等条約」最後まで ビデオ「横浜の歩み」
24日	その他	読み物「期待の構造」
27日	政治・経済	読み物「ポジショニング」1-2
5月8日		読み物「ポジショニング」3
11日		読み物「政治とメディア」p.171まで
15日		読み物「IUC 留学生 日本での企業支援」 18日の講演会のパワーポイント（2017年版）
18日	その他	「日本での起業」政治・経済クラスと合同授業
22日	文学	読み物「ロンリー・ウーマン」1-5
25日		読み物「ロンリー・ウーマン」6-8

*3 学期 1月16日～3月9日、4 学期 3月27日～5月25日

5月18日（金）は、政治・経済のクラスとの合同授業を行った。日本学概論のクラスに

は、就職活動中の学生や起業を目指す学生がいたためである。この日は、株式会社ミナ代表取締役薄井美奈子氏¹⁷を講師に迎え、インバウンド、起業などについての講演会を行っていただいた。5月15日(火)は18日(金)のための下準備の日に当たった。

日本学概論では、語彙クイズと専門科目の作文の2つの課題を出している。語彙クイズは、日本語の文法や語彙を学ぶことに意欲的なクラスであるということ踏まえ、授業担当者の案で行うことにした。3学期は授業の内容から授業担当者が5-10個の語彙や文型を選択し、次回の授業で例文を作成するというものである。4学期は学生の意向を反映し、授業後に作成した例文をメールで授業担当者に送付、添削を受けるという形式に変更した。継続して提出する学生が半数以上おり、習った表現を使えるようになりたいという意欲が見受けられた。

専門科目の作文は、専門科目終了後に、内容についての意見や評論を1200字以内で書くというものである。添削の後、学生に返却する。その他の科目については語彙クイズと作文は課題としていない。

政治・経済クラスとの合同授業の様子



(撮影：松本隆)

3-2 授業の進め方と学生の様子

17-18年度は、選択Aは大沢と橋本の2名が担当した。出勤日の都合により、授業担当者は直接話し合う機会がないため、授業担当者同士はGoogleシートでの引継ぎを行い、授業担当者とコースデザイン担当者は、Googleシートでの引継ぎに加え、口頭での引継ぎも行っている。3-2では授業担当者が授業の進め方や学生の様子について記述する。

大沢が授業を進めるうえで心がけたのは①から⑤の5点である。

①テキストが扱うテーマや問題の背景を意識

小説「蛭」、「ロンリーウーマン」では初回の授業を担当した。授業冒頭で登場人物とその性格、物語の舞台、時代背景を確認するようにした。また「働き方改革」に関する新聞記事を読んだ際は日本の企業風土の理解が必須と考え、テレビCMに見られるサラリー

マンのイメージの変遷を取り上げた。

②キーワードの抽出

授業内でキーワードを積極的に使ってもらい、覚えてもらうための試みである。授業冒頭にキーワードを確認し、板書するようにした。

③テキストの構成を意識し、次に何が書かれているかを予測

テキストの構成に意識が及ばず、テキストを頭から読み進める学生がいた。テキストがどのような構成をしているか、何部構成になっているかを授業冒頭に板書して確認した。また、接続詞に注意して読むように指導した。

④語彙リスト以外の語彙、慣用表現・比喩的表現

新しい語彙や表現の習得に熱心な学生が多かったため、語彙リスト以外の語彙やテキスト内の慣用表現・比喩的表現を積極的に取り上げた。また学術論文で使用頻度の高い語彙・表現についても取り上げた。

⑤議論の糸口を提供

話し合いではまず自身の体験や身近な例に引き寄せて考えるよう促した。また、テキストに書かれていない視点や意見を教師側から提示し、「ゆさぶり」をかけた。天皇陛下の生前退位問題に関して「象徴としてのお勤めについての天皇陛下のおことば」(2016年8月8日)¹⁸を取り上げた際は、実際に天皇陛下が式典の式次第を間違える場面をニュース映像で視聴し、当初マスコミが自主規制してこのことをあまり報道しなかったことにも触れた。

(文責：大沢えり)

橋本が授業を進めるうえで気がついたのは①から⑤の5点である。

①教材

教材によって学生の取り組みに違いが見られたため、授業のはじめに予習の有無や理解度などについて確認し指名頻度や質問内容を調整した。難しいという感想が多かった3教材「不平等条約—欧米外圧の再検討」「茶の湯とイエズス会宣教師」「揺れ動く『信』と『贖』」では、内容確認のための問いに対し、テキストの該当箇所を全部読み上げる、単語一つだけを取り出して答える、「この辺」とテキストを指し示す、などの反応が多く問いに対応する形で答えることができなかった。「不平等条約—欧米外圧の再検討」など1文が長くなる教材では、語彙リストで単語の意味が分かっても文の意味がつかめていなかったため、文の構造に注目し分析しながら読み進めた。また「茶の湯とイエズス会宣教師」

では、先行研究の資料名、年代、著者名が複数取り上げられ、学术论文の文体に不慣れた学生にとっては読みづらかったようだ。文体に慣れるため、音読しながら引用なのか筆者の主張なのかを読み分ける練習を行った。

②予習シート

授業は予習シートに沿って確認する形で進めた。文学教材では印象や感想を平易な表現で簡単にまとめてしまう傾向があるため、テキストのどの表現から何を読み取ったかが話せるよう細かい誘導質問を続けた。それにより表現や語彙についての質問が学生からも多く出るようになり丁寧な読み取りができた。また文章の大きな流れを見失う傾向があったため、節や章ごとに内容を振り返り、まとめるための問いかけも行った。予習シートのない教材についても問いに答える形で内容確認をしながら進めたが、予習シートのあるものと比べると「最後まで読めなかった」「読んだけど忘れてしまった」という声が多くなった。予習段階において予習シートが有用であることが再確認された。

③ビデオ

授業前に視聴していた学生が約半数だったため、全員で視聴しながら適宜停止し、語彙の意味、内容、背景知識などを確認、説明しながら進めた。途中で分からないことを確認できることと、漢字や読解を苦手とする学生が多いためか、読解教材よりは分かりやすいとのことで、意見や感想、情報提供など発言が多かった。

④議論

教材ごとに話し合うべきポイントが【論点】として挙げられているが、活発な議論が行われることはなかった。自分の見聞きしたことや経験などについての具体的なことは話せるのだが、教材から離れて現代社会の問題や抽象的哲学的なテーマについて議論することには苦手意識があるようだった。

⑤政治経済クラスとの合同ディスカッション

講演後、講演者がコンサルタントをしているアパレル企業の海外向け PR 映像についてグループディスカッションを行った。積極的に自分の意見を述べ話し合いをリードする学生が多かった。これは、映像にナレーションや文字がなく理解に言語知識を必要としないことと、具体的な検討材料を再生しながら意見を述べることでできたためだと思われる。自分が理解したものや目の前に提示されたものについては、議論する力、説得する力があることが示された。

総評：

学生は語彙や表現の意味用法の確認や文作りには熱心に取り組んでいた。予め知識や関心のない分野についても授業で内容を理解するにつれ興味を持つようになり、難解な文章を読みこなす達成感を味わったという声もあった。幅広い分野、文体の教材に取り組むことで一定レベルの教養が身についたと思われ、本授業の目標はある程度達成できたと考えられるが、「互いに話し合う」ことについては、個人の経験や具体的なことについて述べる段階に留まり、一般化抽象化して議論するまでには至らなかった。

(文責：橋本佳子)

4 コース評価と学生へのアンケート

3-2 では教師側からの視点を掲載した。4 では学生側からの視点として、各学期末に行われる全科目共通の授業評価のコメントと、日本学概論の最終週に独自に行った学生へのアンケート結果(資料2)を掲載する。

4-1 コース評価

センターでは、各学期のコース終了後に授業評価をアンケート形式で行っている。17-18年度の学生のコメントをまとめると、選択Aの日本学概論は専門のない学生にとっては完璧なコースだった、利益のあるクラスだった、院生ではないセンターの学生にとっては非常に重要なクラスだという意見が聞かれ、おおむね好評だったと言える。

また、初年度ということで教材や授業形態に関する提案もいくつかある。例えば、教材とビデオは素晴らしく、とても情報に満ちており教育的だったが、ドキュメンタリーなどもいいと思う。プレゼンテーション、ディベート、学生主導など、様々な授業形態があればよかったと思うなどである。

課題として専門科目の作文を出しているが、授業の内容をまとめ意見文を書くという作文に関してはその意味を理解できないとの声があった。次年度以降はシラバスなどを配布し、授業内容と課題の意味を明確にすべきであろう。

4-2 アンケート結果

4-1に加え、受講者全員(8人)に対し、日本学概論の最終週に独自にアンケート(資料2)を行った。結果は以下のとおりである¹⁹⁾。

1. 日本学概論の専門科目の中で、最も勉強になった科目を一つ選んでください。

歴史(2) 政治・経済(2) 茶道(1.5)²⁰⁾ 法律(1) 美術・美術史(1) 文学(1)

2. 1の理由を簡単に述べてください。

- ・相対的にわかりやすい。日本の歴史に詳しくないから。(歴史)
- ・私は以前大学等で日本史を学んだ。しかしながら、テキストで扱った部分は新しく、とても教育的であった。(歴史)
- ・政治・経済に詳しくないから。(政治・経済)
- ・新しいことを習った。(茶道)
- ・構成が非常に興味深かった。(法律)
- ・「美」の概念を学術的に考えられたから。(美術)
- ・大学やセンターで文学を勉強したらから。(文学)

3. 日本学概論の専門科目の中で、最も面白かった科目を一つ選んでください。

政治・経済(3) 美術・美術史(2) 茶道(2) 法律(1) 文学(0.5) 言語学(0.5)

4. 3の理由を簡単に述べてください。

- ・「ポジショニング」の記事はとっても面白かった。コーヒーのカフェの歴史と現実がわかった。(政治・経済)
- ・実は政治と経済には興味がないが、このクラスで読んだ記事は時事問題であり、内容も面白いと思う。期待以上のことを学べた。(政治・経済)
- ・3、4学期は政治・経済のクラスをとろうかと考えていた。今後の役に立つだろうし、テーマも楽しめた。なので、この単元は興味深かった。(政治・経済)
- ・「真と偽」のディスカッションは面白かった。(美術・美術史)
- ・もともと興味があり、勉強になったから面白いと言える。話し合いの時にいろいろな意見が出た。(美術・美術史)
- ・面白かったから。(茶道)
- ・親戚に弁護士のアシスタントがいるので、専門的な言葉を知るのは面白かった。親戚に弁護士関係の仕事をしている人がいるので、個人的に関係がある。少し興味があった。(法律)
- ・(選択が一つなので他に付けたが) 文学と言語学も面白かった。(文学・言語学)

5. 日本学概論の専門科目の中で、最も難しかった科目を一つ選んでください。

美術・美術史(3) 歴史(2) 法律(1) 文学(1) 言語学(1)

6. 5の理由を簡単に述べてください。

- ・実はあまり興味がない。たくさんわからない言葉があった。ただ私のスタイルではなかったからかもしれない。(美術・美術史)

- ・用語が難しかった。(美術・美術史)
- ・このトピック自体は難しくない。しかしながらテキストの文体が理解を難しくさせたと思う。(美術・美術史)
- ・よく理解するための背景知識が足りなかった。(歴史)
- ・興味がない。苦手。(歴史)
- ・読みにくい。(文学)
- ・言語学に関する内容はやや哲学的なので、理解が難しいうえに、生活に応用が利かないから。(言語学)

7. その他の中で、最も勉強になったものを一つ選んでください。

働き方改革(3) 「文学者」の国にぼくがいる(2) 真の問題は「皇位継承」制度改革だ(1)
N/A(2)

8. 7の理由を簡単に述べてください。

- ・時事問題だから。(働き方)
- ・就職のため。(働き方)
- ・実は記事の内容を覚えていないが、授業後にいろいろと習ったかもしれないと思った。最も勉強になったが、面白くはない。(文学者)
- ・哲学的に分析できて、楽しかった。(文学者)
- ・皇室に関して学ぶのは楽しかった。この制度は日本らしい。(皇位継承)
- ・実は読んでいない。すみません。(N/A)

9. 政治・経済クラスとの合同授業はどうでしたか(複数回答可)。

面白かった(5) 勉強になった(5) 参加できてよかった(4) 必要なかった(2)

また聞きたい(2) 刺激になった(1)

- その他(2)
- ・講演者が素晴らしかった。
 - ・女性起業家と話す機会は珍しいから。

10. 日本学概論の内容のレベルはどうでしたか。一つ選んでください。

問題ない(5) 難しい(2) N/A(1)

- ・難しいというより「チャレンジング (Challenging)」と言ったほうが良い。これは良いことだと思う。もし「問題がない」「易しい」のどちらかだと、退屈だ²¹。

11. 日本学概論の日本語のレベル (上級)はどうでしたか。一つ選んでください。

問題ない(5) 難しい(1) 易しい(1) N/A(1)

- ・(問題はない)しかし、読むのに時間がかかった。読み物以外の日本の素材がもっとあ

ると良かったと思う²²。

**12. 日本学概論の授業で読んでみたかった、あるいは読んだら役に立つのではないかと
思う作家や作品、書籍や論文などがありましたら、記入してください。**

- ・ほかのクラスで面白い記事を読んでいると聞いたが、タイトルを思い出せない。
- ・特になし。校外学習があると良かった。
- ・国際関係の記事、村上春樹、綿矢りさ、川上ひろみ、中村文則、川上未映子、山崎直子
- ・私たちは様々な分野の読み物、トピック、文体のものを読んだ。もし基本的な日本のアカデミック・ライティングの情報が事前にわかっていたら、よかったと思う。

13. その他、ご意見がありましたらご記入ください。

- ・時々読み物のテキストの字は小さすぎた。漢字が読みにくくて、読んだら目がすぐに痛くなった。
- ・色々なことを勉強した。
- ・欠席が多くてすみません。
- ・今年度はこのクラスをとれて非常に幸せだった。難しいことだとは思いますが、私のような研究者ではない学生にとっては、日本で教育を受けている大人が知っておくべき様々な話題を学ぶことは重要だ。このクラスに感謝を述べたい。

アンケートの選択結果や理由の記述を見ると、1-8 までの各専門科目については評価の傾向として3つになる。①興味や関心があるので評価が高い、②興味や関心知識がなかったが、学ぶことができたため評価が高い、③興味や関心がないので評価が低い、である。

9は17-18年度は政治・経済クラスとの合同授業についてである。日本学概論の学生は、日本での就職や、日本で長く生活することを希望している人が多いこともあり好評であった。日本学概論の学生は政治・経済を専門としないため、授業で下準備を行った。このため講演会当日は政治・経済を専門とする学生と同じ授業でも引け目を取らないことを実感でき、自信を持てたようだ。尚「必要なかった」を選んだ学生は、政治・経済や起業などに全く興味・関心のない学生である。

10、11に関してはセンターの学生らしい結果ともいえる。「3-2 授業の進め方と学生の様子」にもあるように、授業担当の教師からみると授業中はなかなか読みこなせていなかったり、苦しい、あきらめるといった様子が目に付く。ただ、センターでは「チャレンジング (Challenging)」という言葉を用い、評価の対象とする学生がいる。この「チャレンジング (Challenging)」という心理状態を上手く利用した活動を提供し、授業を進めていけることが理想である。

12-13に関しては、次年時以降の参考にしたい。

5 おわりに

センターでは2017-18年度より、選択A（専門科目）の科目として新たに「日本学概論」を設置した。本稿では2017-18年度の3、4学期の実践内容やアンケート結果を報告した。

今後の課題としてはまず、学術的な背景を持たない学生が多いので、話し合いを「お話」から「議論」にするための練習が必要であると考え。最終日には話し合いの形にまで持っていくことができたため一定の成果はあったと考えているが、教師主導で授業を進めてしまったという反省もある。例えば議論の素材を教師側が用意するのではなく、あるテーマを扱った後、代表的な見解や意見について学生が紹介し、賛成反対の立場で議論するというような練習を取り入れるべきだろう。

読解教材の量や内容にも調整が必要である。長い読み物は予習をあきらめ、授業で細かく確認できないことがあったので、内容のレベルを落とすことなく、教材の量の調整などを行う必要があるだろう。来年度以降は、教師が用意したいくつかの候補の中から学生に読みたいものを選んでもらう、あるいは読み物やニュース映像等を学生に選ばせるのも有効であると考えが、その際には内容やレベルを維持するために教師の介入が必須であろう。

また、予習の段階で分からないことを調べずに授業に来る学生に対する対応も課題である。授業に来れば先生が教えてくれるという態度では自主学習能力も育たず、自力で情報収集や整理を行うという力が付かないため、自分で調べるよう指導する、調べ方を教える、予習の前に基本的な知識や情報を提示する、などの対策が必要であろう。

日本学概論の学生は、共通の専門もなく、興味・関心も一致せず、日本語のレベル差も日本語学習の目的も広い。ただし、日本語力を伸ばすという目的は教師・学生ともに一致している。選択A（専門科目）という性質上、教材の内容と日本語のレベルは他の科目より極力落とさずに、しかし難しすぎないように配慮しつつも「チャレンジング (Challenging)」な活動であり、授業終了後には達成感を持って、知的好奇心を満たせるような授業を目指していきたい。

謝辞

日本学概論の教材作成にあたり、センターの同僚教師および米国スワスモア大学 (Swarthmore College) の城佳子先生に教材をご紹介いただきました。また政治・経済クラスとの合同授業に際しては薄井美奈子氏にお世話になりました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

注

- 1 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター講師。日本学概論コースデザイン担当者。
- 2 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター教授。日本学概論コースデザイン担当者。
- 3 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター非常勤講師。日本学概論授業担当者。
- 4 アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター非常勤講師。日本学概論授業担当者。
- 5 参照：大竹 (2017)
- 6 参照：佐藤他 (2018)
- 7 専門的な内容を専門ではない学生に読ませるために、教材の日本語が易しいもの（例えば日本語初級者向けのテキスト）を選ぶということはしないということ。
- 8 参照：大竹 (2018)
- 9 選択 A の科目として、言語学と茶道は開講されていないが、コースデザイン担当者の専門であるため加えた。尚、茶道はクラブをおこなっている（cf.結城(2017)）。
- 10 教材を複数提供されていても、使用していない教材は載せていない。
- 11 追加資料に関しては紙面の都合上、本実践報告では割愛している。
- 12 以下3本を教材用に編集している。
 - ①憲法条文 11、14、15、18、93条およびその英訳
 - ②最高裁判例（外国人の地方選挙権（最高裁判決'95・2・28））抜粋
 - ③外国人の人権解説（書き下ろし）
- 13 以下4本を教材用に編集している。①石川九楊(2017)『日本論 文字と言葉がつくった国』②今野真二(2017)『図説日本の文字』③梅棹忠夫(2004)『日本語の将来 ローマ字表記で国際化を』④白川静(2005)『文字講話IV』
- 14 教員や学生が確認したいことやさらに追求したいことが生じた場合、教材の表紙に記載してある教材提供者に聞くことができるようにしてある。
- 15 2016-17年度のサマーコースの担任である城佳子先生に教材をご紹介いただきました。
- 16 編集者がタスク形式で構成している。
- 17 薄井美奈子（うすい みなこ）。海外ウェディングプロデューサー、IWPA 国際ウェディングプランナー協会認定、ウェディングコンサルタント（英国・日本）、ABC 全米ブライダルコンサルタント協会、ブライダルプランナー1級など。
<https://minaexclusives.com/>、<https://minaexclusives.com/about/>
- 18 宮内庁HP参照。
- 19 英語で書かれている場合は、日本語に翻訳してある。日本語に誤りがある場合は、訂正している。選択式の問いに回答のない項目は、N/Aとしている。
- 20 一つのみ選択することになっているが「also really enjoyed this topic」というコメントと丸を付けていたため、0.5とした。以下もコメントやチェックがあった場合は、0.5で

カウントしている。

- 21 コメント欄を設けていなかったが、この学生はコメントを付けてくれた。
 22 コメント欄を設けていなかったが、この学生はコメントを付けてくれた。

引用文献

- 青木惣一 (2016)「アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの上級日本語教育（日本語学習の現場から）」『ことばと文字』第6号、くろしお出版、pp.126-133
 大竹弘子 (2017)「[2016-17年度カリキュラム報告 —アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育—](#)」『日本研究センター教育研究年報』第6号
 大竹弘子 (2018)「[2017-18年度カリキュラム報告 —アメリカ・カナダ大学連合日本研究センターの中上級日本語集中教育—](#)」『日本研究センター教育研究年報』第7号
 佐藤有理 (2018)「[カリキュラムを再検討する取り組み —教育目標と評価の見直しを中心に—](#)」『日本研究センター教育研究年報』第7号
 結城佐織 (2017)「[ミドルベリー大学日本語夏学校『茶道クラブ』と日本研究センターレギュラーコース『茶道クラブ』](#)」『日本研究センター教育研究年報』第6号

教材使用文献等

- 青木幸弘 (2015)「第4章 ポジショニング」『ケースに学ぶマーケティング』有斐閣
 池上彰 (2016)「政治とメディア」『これが「日本の民主主義」！』集英社
 石川九楊 (2017)『日本論 文字と言葉がつくった国』講談社選書メチエ 653、講談社
 磯貝友紀・寺田鮎美・山崎佳子・近藤由紀 (2001)「揺れ動く『信』と『贗』」西野嘉章編『真贗のはざま—デュシャンから遺伝子まで—』東京大学コレクションVII、東京大学総合研究博物館
 井上亮 (2017)「真の問題は「皇位継承」制度改革だ」『文藝春秋オピニオン 2018年の論点 100』文藝春秋
 梅棹忠夫 (2004)『日本語の将来 ローマ字表記で国際化を』日本放送出版協会
 ケント・E・カルダー (2017)「日本研究の二つの潮流」『中央公論』2017年9月号、特集「ハーバードの日本「再発見」」中央公論新社
 小風秀雅編 (2016)「1章 開港と不平等条約 欧米外圧の再検討」『大学の日本史 教養から考える歴史へ』4近代、山川出版
 小浜逸郎 (2007)「期待の構造」『高校生のための現代思想エッセンス ちくま評論選』筑摩書房
 今野真二 (2017)『図説日本の文字』ふくろうの本、河出書房新社

- 白川静 (2005)『文字講話IV』「第二十話 漢字の将来」平凡社
スモットニー裕美 (2016)『茶の湯とイエズス会宣教師』思文閣
高橋たかこ (1982)「ロンリー・ウーマン」集英社文庫
田中克彦 (1981)「母語と母国語」『言葉と国家』岩波書店
谷端昭夫 (2007)「信長の名物狩りと御茶湯御政道」『よくわかる茶道の歴史』淡交社
日本経済新聞社 (2017.11.18)「北斎の画業・影響 深まる国際研究」(新聞記事)
日本経済新聞社 (2018.4.24)「留学生 日本での起業支援」(新聞記事)
村上春樹 (1984)「螢」、短編集『螢・納屋を焼く』新潮文庫
山口紗貴子 (2017)「働き方改革」法案が生む「ブラック残業」『文藝春秋オピニオン
2018年の論点100』文藝春秋
湯浅誠 (2017)「経済的損失四十兆円二〇一七年は子供の貧困対策元年」『文藝春秋オピニ
オン 2018年の論点100』文藝春秋
横浜開港資料館企画 (1987)『横浜の歩み』グループ現代 (ビデオ)
リービ英雄 (1997)「文学者の国、に僕がいる」『アイデンティティーズ』講談社

- 外国人の人権 解説 (書き下ろし)
憲法条文 11、14、15、18、93 条およびその英訳
最高裁判例 (外国人の地方選挙権 (最高裁判決 1995.2.28)) 抜粋

ホームページ等

- ETV 特集 (2006)「人間 (アイヌ) からの問いかけ～萱野茂のメッセージ」、NHK
<http://www.nhk.or.jp/etv21c/update/2006/0722.html> (2018.7.23 アクセス)
NHK (2017)「国宝 美と日本人の物語」、歴史秘話ヒストリア
<http://www.nhk.or.jp/historia/backnumber/328.html> (2018.7.23 アクセス)
NHK for school (2018.1)「裁判員裁判ってなに？」2018 年度第 7 回、10min.ボックス、NHK
http://www.nhk.or.jp/syakai/10min_koukyou/?das_id=D0005120297_00000 (2018.7.23 ア
クセス)
宮内庁HP「象徴としてのお務めについての天皇陛下のおことば」
<http://www.kunaicho.go.jp/page/okotoba/detail/12> (2018.7.23 アクセス)
テレビ朝日 (2018.3)「池上彰のニュースそうだったのか」
<http://www.tv-asahi.co.jp/ikegami-news/backnumber/0071/> (2018.7.23 アクセス)